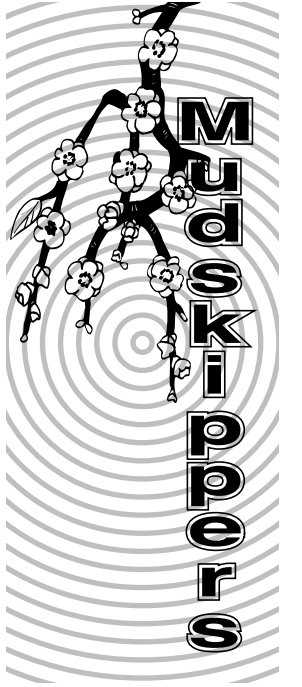




# 卒業 おめでとう!



第 50 号

2017年 7月発行

佐賀大学医学部

〒849-8501

佐賀市鍋島5丁目1番1号

http://www.saga-med.ac.jp/

新聞編集委員会

印刷/株昭和堂

## 平成28年度 医学部・学部長表彰

### 課外活動等 注：学年は平成28年度のもの

バドミントン部	第50回全日本医科学生体育大会王座決定戦 団体女子 優勝
医学科1年 青木 涼子	第68回西日本医科学生総合体育大会 バドミントン女子個人戦 優勝
医学科6年 古川祐太郎	急病人に対する確な救護活動を行い、回復に貢献したとして、佐賀県医療センター好生館より感謝状を授与された。

### 学業成績優秀者

注：掲載順はアイウエオ順による。学年は平成28年度のもの

#### 【医学科】

6年	池田 慧 石瀬 裕子 園田 有理 松尾 和紀 三角優莉奈	3年	今里美有紀 小野 航平 古賀 俊介 後藤 憲人 吉富 裕加
5年	鶴田 成二 寺田 圭吾 西原 歩美 原田 奈佳 藤田 真衣	2年	一戸 貫人 佐藤 葵 島田 悠史 杉山 祐 森 美香
4年	大迫 亮介 島田 里美 福島伸乃介 南 優希 村上 陽亮	1年	岩永 夏妃 謝名堂星也 田実 とわ 林田 寛之 宮崎 瑠子 吉田 華子

#### 【看護学科】

4年	綾部 葉月 上野明日香 小野 詩織
3年	石井 陽菜 熊丸 梨菜 塚原 仁美
2年	石飛 早希 大柿菜津子 新宮 真子
1年	田中 千裕 森 千夏 西村 真叶



最近、AI(人工知能)に関するニュースをよく見聞きする。現在は、第三次AIブームらしい。先日コンピュータ囲碁プログラムである「アルファ碁」が、世界最強と言われる中国囲碁棋士に完勝したと報道された。つい1年ほど前に韓国のトップ棋士と対戦して4勝1敗で勝ち、囲碁の世界でAIが人間を超えたと大きなニュースになっていたが、わずかな間にトップ棋士を寄せ付けないような強さに進歩した。これでアルファ碁と人間との対戦は終了だそうである。

AIが急速に能力を高めることになったのは、ディープラーニング(深層学習)と言われる仕組みの実用化による。これはニューラルネットワークと呼ばれるヒト脳の学習モデルを取り入れたものだそう、コンピュータが自らルールを見つけて学習できるようになったという。人間は犬をみると当たり前のよう「犬」と認識できるが、これは犬以外の動物を見ただで何かしら「犬」の特徴を見出して「犬」と判断する材料にしているからである。ディープラーニングも同様で、コンピュータに大量の画像

を読み込ませることで、犬らしさを自分で見つけて画像を判別できるという。AIはすでに我々の日常生活の中様々な場面の中に入り込んできている。ネットの検索エンジンや音声アプリはそうであるし、部屋に置いておけば勝手に掃除してくれるロボット掃除機もある。車の運転支援システムは衝突防止に役立っている。さらにはAIを搭載したヒト型ロボットが受付をする「変なホテル」が登場し、人間の案内役を買って出ている。医療の分野でも、AIが活用される範囲が確実に広がりにつつある。CTやMRIの画像データから病気の診断を下すことが可能になっており、肺がんなどでは専門医の診断を上回る場合もあるという。白血病患者の遺伝子解析をIBMのAI「ワトソン」に行かせた結果、特殊な型の白血病である可能性が指摘され、治療に役立ったとのニュースも昨年流れていた。現在のように一日何百何千もの医学論文が発表される中では、一人の医師がそれらをすべて把握するのは不可能である。ワトソンのようなAIがあれば、問題に対する適切な論文を示して医師の負担を軽減してくれることで、早期診断から治療につながるといったメリットも出てくるだろう。



ただ、現在のAIができることは、人間の脳が持つ機能のうち特定の部分だけに限られている。人間の脳と同じように自己意識や想像力をもって、あらゆる分野で汎用性を持つて機能するAIはまだ存在しない。だが、このままAIが進化していくとどうなるのであるか?我々の生活が益々便利になっていくのは間違いない一方で、これまで人間が行ってきた仕事の一部は確実にAIによって置き換えられていく。さらに創造的な能力を要すると思われる小説執筆や作曲をAIに行わせることもすでに試みられていて、AI作詞作曲の歌がヒットチャートを席巻する時代が来るかも知れない。

このまいくと、AIが加速度的に獲得していく知性が、人間の持つ知性を追い越してしまう技術的特異点(シンギュラリティ)が来て、それは2040年頃ではないかという予測もある(もちろん、そんな日は来ないと主張する人たちも多い)。その頃は今の学生の皆さんが社会の中軸を担う世代になっているはずである。AIと人間の関係について、どのような未来を想像するだろうか?そしてその頃に、医療の価値は現在と同じままでいられるだろうか?

(尾崎岩太)



